

(日置郡伊集院町竹之山)

位置と環境

遺跡は伊集院町、鹿児島市、松元町の3市町境に広がる標高約190mの台地上に立地している。同じ台地上の南側には横井竹ノ山遺跡が存在する。

調査の経緯

本遺跡は県道小山田谷山線建設に伴い、鹿児島県土木部伊集院土木事務所の依頼を受けて鹿児島県教育委員会が調査を行った。

瀬戸頭遺跡はA、B、Cの3遺跡があり、瀬戸頭A遺跡が平成10年～平成12年にかけて16か月間、瀬戸頭B遺跡が平成13年10月から平成14年3月までの6か月間、瀬戸頭C遺跡が平成11年7月から10月までの4か月間にわたり調査を実施した。調査面積はそれぞれ10,000㎡、2,000㎡、2,800㎡である。

遺構と遺物

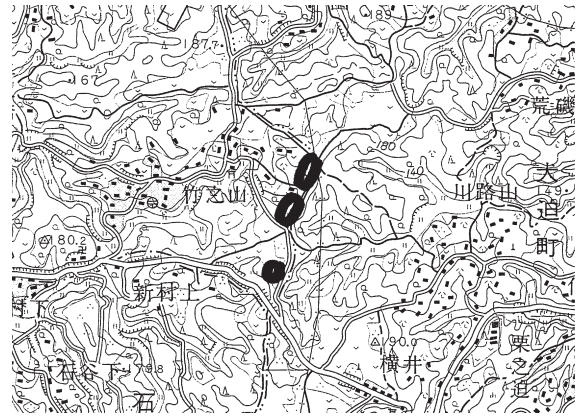
1 瀬戸頭A遺跡

本遺跡ではナイフ形石器文化期～細石刃文化期までの3つの文化層が確認されている。層位は薩摩火山灰層をVI層として通称“チョコ層”と呼ばれるVIIa層、VIIb層、VIIc層、ATの風化土壌であるVIII層で、これは瀬戸頭ABCいずれの遺跡にも当てはまる標準地層となっている。

VIII層からはナイフ形石器文化期のブロックが1か所検出され、台形石器が出土している。

VIIb層は本遺跡の旧石器時代でも主体となる包含層でブロックが複数検出されている。石器は小型の台形石器、ナイフ形石器である。(第2図) 時期はナイフ形石器文化期でも終わりに近い時期と考えられる。VIIb層のブロックはこれまでも周辺の複数の遺跡で遺跡で確認されていたが、上下層のブロックと重なるケースが多く、単純に抽出することが困難であった。しかし本遺跡では上下層の遺物の重なりが見られず、純粋な状態で検出され、貴重な例となった。

VIIa層は細石刃文化期のブロックが複数検出されている。遺物は細石刃、細石刃核、石斧などが出土している。なお、同層からは平成12年度の調査で丸



第1図 瀬戸頭A、B、C遺跡の位置

ノミ形石斧も1点出土している。

2 瀬戸頭B遺跡

本遺跡では縄文時代早期と旧石器時代細石刃文化期の2つの文化層が確認されている。

縄文早期は前平式土器、吉田式土器、石坂式土器、平椀式土器等が出土している。

旧石器時代では細石刃文化期の文化層が確認されている。遺構は19か所のブロック、礫群1基が検出されている。遺物は約7,000点出土し、細石刃、細石刃核が含まれている。

3 瀬戸頭C遺跡

本遺跡ではVIII層よりナイフ形石器文化期のブロックが1基検出されていた。ブロックには台形石器が含まれ、台形石器の製作跡である可能性が考えられる。

特徴

同じ台地上の近隣で旧石器時代の様々な石器群が検出された。横井竹ノ山遺跡とも併せて同台地上における旧石器時代は変遷や行動パターンの解明のきっかけとなる可能性がある。

資料の所在

出土遺物は、鹿児島県教育委員会に保管されている。

参考文献

伊集院町教育委員会1999「瀬戸頭遺跡」『伊集院町埋蔵文化財発掘調査報告書』11

(桑波田武志)



写真1 土層断面

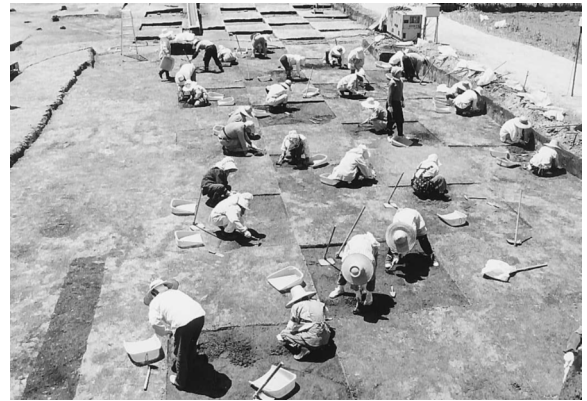


写真2 旧石器時代調査風景



写真3 VIIb層のブロック

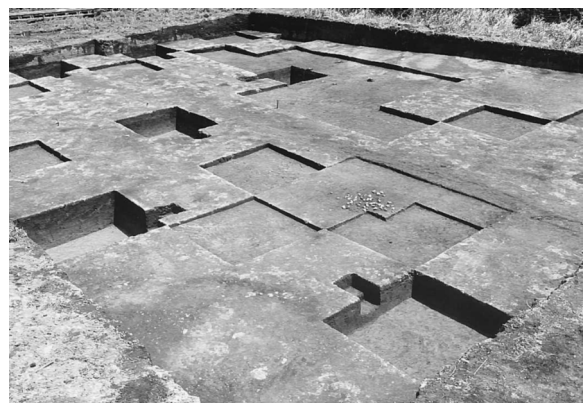
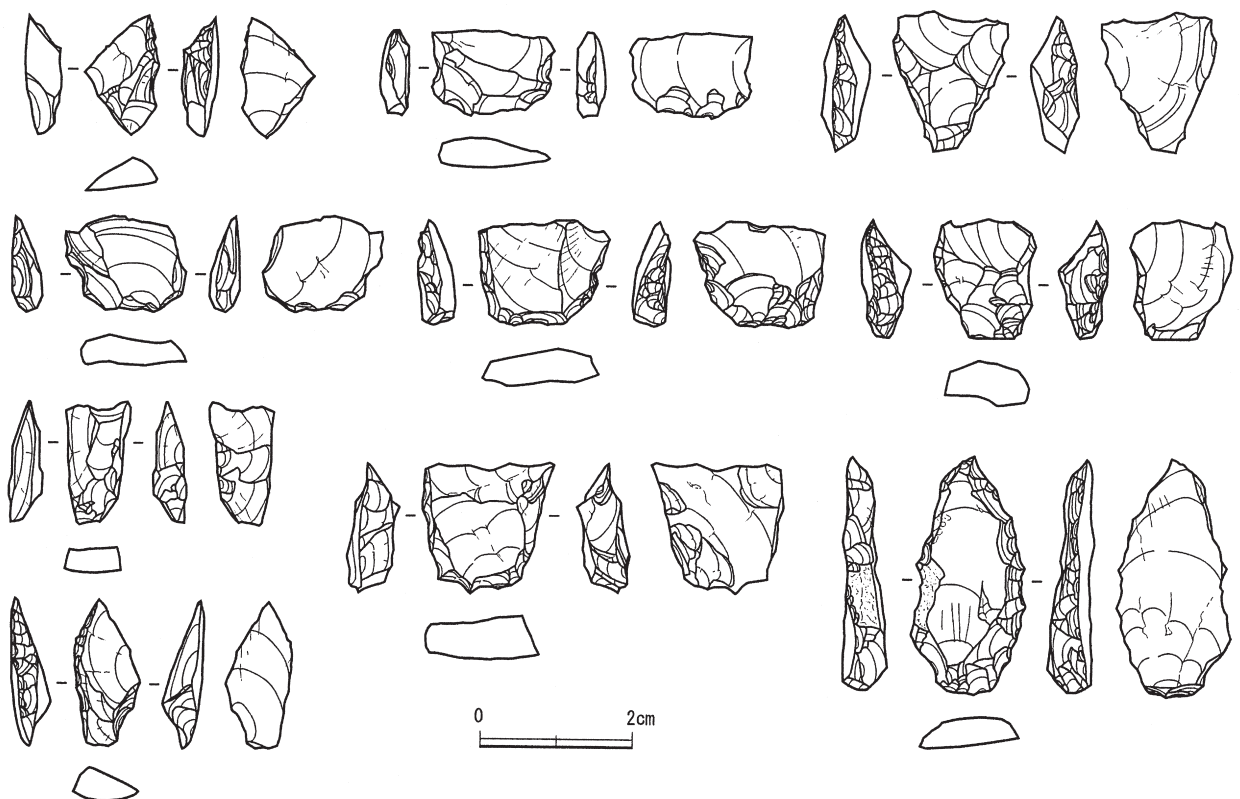


写真4 完掘状況



第2図 VIIb層出土の石器（瀬戸頭A遺跡）